

地理歴史科（歴史総合）学習指導案

1 単元名 国際秩序の変化や大衆化と現代的な諸課題

2 単元の目標

- (1) 「対立・協調」「統合・分化」「平等・格差」といった観点から設定された主題について、諸資料を活用して追究する活動を行い、現代的な諸課題の形成に関わる国際秩序の変化や大衆化の歴史を理解する。
- (2) 事象の背景や原因、結果や影響などに着目しつつ、複数の国や地域の動向を比較したり相互に関連付けるなどして、設定された主題について多面的・多角的に考察し表現する。

3 単元計画（全体3時間）

(1) 指導計画

- ・鉄道政策をめぐる対立「対立・協調」 1時間
- ・移民と国民統合の在り方「統合・分化」 1時間
- ・オリンピックにおける格差と平等の実現「平等・格差」 1時間（本時3/3）

(2) 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・諸資料から情報を適切かつ効果的にまとめ、現代的な諸課題に関わる国際秩序の変化や大衆化の歴史を理解している。	・「対立・協調」「統合・分化」「平等・格差」の観点から、各々の特徴に着目して、これまでの学習を振り返り、資料を活用して、現代的な諸課題との関連を考察し、探究した結果を表現している。	・「対立・協調」「統合・分化」「平等・格差」について、よりよい社会の実現を視野に、自身との関わりを踏まえて学習を振り返るとともに、次の学習へのつながりや課題を見いだそうとしている。

(3) 指導内容及び評価計画

(○…「評定に用いる評価」、●…「学習改善につなげる評価」)

次	学習内容	ねらい・学習活動	評価の観点			(B)具体的な評価規準 (C)具体的支援	評価方法
			知	思	態		
第1次 (1)	【学習課題】『「対立・協調」のバランスや両者の主張に見られる優先順位の違いは何か』 ・鉄道政策をめぐる対立	【ねらい】日本における鉄道政策をめぐる対立から、現代社会における「対立・協調」を考察する。	○	○		【思】 (4) ア参照	・レポートの記述を基に評価する。
第2次 (1)	【学習課題】『「統合・分化」の視点から国民統合の在り方をどのように捉えるべきか』 ・移民と国民統合の在り方	【ねらい】移民の背景や国民統合との関係から、現代社会における「統合・分化」を考察する。	○	○		【思】 (4) ア参照	・レポートの記述を基に評価する。
第3次 (1)	【学習課題】『「男女平等・ジェンダーについてどのような問題があり、どう解決すべきだろうか』 ・オリンピックにおける格差と平等の実現	【ねらい】競技数に見られる男女の格差と平等の実現から、男女平等・ジェンダーの問題を考察する。		●	○	【思】 (4) ア参照 【態】 (4) イ参照	・レポートの記述を基に評価する。 ・ワークシートの記述を基に評価する。

(4) 評価規準

ア レポートの評価規準【思考・判断・表現】

国際秩序の変化や大衆化と現代的な諸課題について、「対立・協調」「統合・分化」「平等・格差」の観点を踏まえ、考察している。

判断基準

「おおむね満足できる」状況（B）と判断される例

・「対立・協調」「統合・分化」「平等・格差」の観点を踏まえ、具体的な事例を挙げて記述している。
「十分満足できる」状況（A）と判断される例
・「対立・協調」「統合・分化」「平等・格差」の観点を踏まえ、具体的な事例を複数挙げて、多角的に記述している。
「努力を要する」状況（C）と判断される例とその生徒への支援
・「対立・協調」「統合・分化」「平等・格差」の観点を踏まえ、具体的な事例を挙げて記述できていない。 →生徒の学習状況を把握し、適切な添削指導を行う。

イ ワークシートの評価規準【主体的に学習に取り組む態度】

「平等・格差」について、よりよい社会の実現を視野に、自身との関わりを踏まえて学習を振り返るとともに、次の学習へのつながりや課題を見いだそうとしている。

判断基準

「おおむね満足できる」状況（B）と判断される例
・男女平等・ジェンダーの具体的な事例をあげて記述し、自分との関わりを踏まえて、課題を見いだそうとしている。
「十分満足できる」状況（A）と判断される例
・男女平等・ジェンダーの具体的な事例を複数あげて多角的に記述し、自分との関わりを踏まえて、次への学習のつながりや課題を見いだそうとしている。
「努力を要する」状況（C）と判断される例とその生徒への支援
・男女平等・ジェンダーの具体的な事例をあげて記述できず、自分との関わりを踏まえて課題を見いだせていない。 →生徒の学習状況を把握し、適切な助言を行う。

4 本時の指導と評価の計画

(1) 本時の目標

ア 競技数に見られる男女の格差と平等の実現に着目し、資料を活用して男女平等・ジェンダー問題との関連を考察する。

イ 「平等・格差」について、よりよい社会の実現を視野に、自身との関わりを踏まえて学習を振り返り、次の学習へのつながりや課題を見いだす。

(2) 本時の展開

(○…「評定に用いる評価」、●…「学習改善につなげる評価」)

	学習内容	学習活動	指導上の留意点・評価
導入	・MQ1の確認 「近代オリンピックの開催当初、女性選手が男性選手よりも少なかったのはなぜか？」	・MQ1（学習前）に答える。	・調べて書く必要がないことを説明する。
展開1	・競技数からみる格差と平等の実現	・資料1「参加競技数」、資料2「スポーツ史研究者の見解」、資料3「新聞記事」の資料を読み取り、SQ1～3に答える。 ・MQ1（学習後）に答える。	・KP法（紙芝居プレゼンテーション法）を併用し、学習全体を確認できるようにする。 ・学習前と後を比較して、MQ1に対する生徒自身の考えの変化に気付かせる。
展開2	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;">【学習課題】「男女平等・ジェンダーについてどのような問題があり、どう解決すべきだろうか。」</div> ・現代的な諸課題との関わり ・MQ2の確認	・資料4「ジェンダー＝ギャップ指数」から、日本の現状について確認する。	・生徒が学習に取り組めるように観察し、助言する。 ○ワークシートのMQ2 【主体的に学習に取り組む態度】

	「現代の男女平等やジェンダー問題について、どんな課題がありますか？またその課題に対して、あなたはどのように関わっていきますか？」	<ul style="list-style-type: none"> ・「Slido」を用いてウェブサイト上で意見交換をし、男女平等やジェンダー問題について、自分の考えをまとめる。 ・資料5「平等と公平」から両者の違いについて考える。 	
まとめ	・振り返り	・出席票に振り返りを記入する。	

(3) 本時の評価規準

4の(4)イ参照

5 成果と課題

(1) 成果

本校生徒は、資料の読み取りは一定程度できるが、それを踏まえて自分の考えを形成し、表現することや、他者との直接的なコミュニケーションを苦手とする生徒が多いため、グループワークでも発言はあまりなく、議論が深まらないことが予想される。そこで、ウェブサイトツールの「Slido」を用いてオンライン上での意見交換を行った。本実践を通して、生徒からは「みんなの意見を見て共感できる場所や新しいことを学べた」「男性目線、女性目線など多角的に問題を考えることができた」といった感想があり、協働学習の効果がうかがえた。一方で、「男女平等にこだわるのではなく、人間が全員、公平でいられる世界を作ることを重視する必要があると考えた」、「男女の公平も大事だと思うが社会全体にも公平にしていくことが差別をなくしていけることなのかなと思った」といった感想のように、男女平等・ジェンダー問題にとどまらず、「平等・公平」の視点で社会全体について考えた生徒もおり、より深い学びになったと感じた。

(2) 課題

意見の投稿率が低いことが課題である。投稿率は48%（閲覧44人、うち投稿21人）であり、約半数は自分の意見を投稿していないため、活発的な意見交換ができるように本校生徒に合った支援策を考える必要がある。また、近代オリンピックの事例だけで、現代の男女平等・ジェンダー問題を考えるのは、少々資料不足だったと感じている。女性解放運動やフェミニズム運動を題材に、歴史的な脈から女性の社会的地位の変化を捉えて、現代の男女平等・ジェンダー問題を考える方が、より関連性を持って取り組めるのではないかと反省している。今後は、意見の投票などを可能にするプラットフォームである Slido による対話的な学びを促し、歴史的な事象を現代的な諸課題と関連付けて考えることができる場面を設定した対話的で深い学びを実現していきたい。

6 引用文献

- ・『資料と問いから考える歴史総合』（浜島書店、2022年）
- ・『よくわかるスポーツとジェンダー』（ミネルヴァ書房、2018年）
- ・『歴代オリンピックでたどる世界の歴史』（山川出版社、2017年）